表六章

うらひきや亭子無常の園　口　亀得

浮かるゝ身に旅深き夜半　禾葉

秋くるゝ船のかゝりの小笠原　杏岸

庵の深き芋の掛八丈　ト輔治　吉丼

椿さく好坂の一もとも残る月　蕪

柄みしもとも楽しき峯の　得

ウ

菜みなさかる谷々の里まで　杏らり字　亀得

椙かゝる下へて来るあり　描み忘　禾葉

みよしきけしゝ家